

知られざる ごてんざん 五天山物語

西区平和・福井両地区の間に、五天山という高さ303.5mの小山があります。昭和の初めまでは全く無名の山でしたが、昭和10年以降その不思議な歴史を刻み始めます。今月はこの五天山の話です。



▲昭和10年、五天山の山頂に集まった人々。真中に立つ白装束の人が、お告げを聞いた井上弥一郎さん

夢に出てきた不思議なお告げ

昭和十年（一九三五年）、農業を営む井上弥一郎さんの夢枕に大國主大神が立ち、「我を手稻の里、西野の山に祭れ」とお告げがあったそうです。井上さんは、それまでもお告げを得たり、人々の相談に乗ったりしていたとも言われています。

井上さんは、地元の安井廣さん、野村村榮さんらと相談した結果、佐々木千代松さんの持つ山に祭るのが最もふさわしいということになり、山の頂上にみんなでほこらを作りました。この時、仏典から引用して、釈迦の国インドの山を意味する「五天山」と名付けました。

上の写真は、そのころ山頂で撮られたものです。現在ほとんどの方は亡くなっていますが、一人だけ今も五天山のふもとに住んでいる方がいます。当時はまだ十五歳だった天田春治さんで、後列左端に立っています。現在は八十二歳になら

れました。

天田さんは、「当時、ただ手伝つてくれと言われて、山頂まで人が通れるように、かまを持つて笹を刈りに行きました。神を祭るとか、そういうことは詳しく聞いていませんでした」とその時の様子を振り返ります。

地元の人たちも、宗教や信仰というより、地域のために一肌脱こうとほこら作りに尽力したようです。中には体が丈夫でなかったため、健康祈願のつもりで参加した人もいたそうです。馬を使って山頂まで大きな石を幾つも運ぶなど、かなり大変な作業だったと言います。また、夢のお告げで「台石と立石がある」と言われ



▲天田春治さん